

第4学年 国語科学習指導案

10の視点① 教材提示の工夫

教材を読みたい、みんなで考えたいという教材提示が行われています。

【改善】

教科書に示された単元名から次のように改善した。これにより筆者に提案するために、筆者の考えを知る（教材を読み込む）必然性が生まれる。また、相手意識を明確にすることで児童の主体的な学びにつなげることができた。

1 単元名 小林さんに提案する「ゆめのロボット」を考えよう

中核教材 「ゆめのロボット」を作る（東京書籍4年下）

補助教材 図書資料 図鑑等 デジタル教科書

2 単元について

- B 書くこと (1) ウ 書こうとすることの中心を明確にし、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。
- C 読むこと (1) イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。
- オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くこと。

(1) 単元観

本単元は、インタビュー記事と説明文という形式の違う二つの文章から筆者の考える「ゆめのロボット」について読み取ることをねらいとし、それをもとにして、自分の考える「ゆめのロボット」について紹介する単元である。

本教材は、児童にとって関心の深いロボットについての研究を題材としている。技術が進歩していく社会の中で生きる人間にとって大切なことについても気付かせてくれる教材である。インタビュー記事では、ロボットの概要や筆者の研究の大枠を理解することができる。また、説明文では筆者の考えるロボットについてより具体的に知ることができる。インタビュー記事では、質問とそれに対する回答からなる構成であり、読み手にとっても質問者の思考に沿って相手の発言を読むことができ、内容を捉えやすい。説明文は、「初め」「中」「終わり」（序論・本論・結論）の構成をもち「中」には二つのロボットの具体的な紹介が述べられている。インタビュー記事に比べ、緊密な構成の元で展開されている説明文であり述べられていることを整理して捉えやすい。

二つの教材文から筆者の「ゆめのロボット」への願いを深く読み取り、児童のこれまでの認識に新たな気付きや発見をもたらすことを期待できる。

(2) 児童の実態（略）

(3) 指導にあたって

◆つけたい力の明確化 (つけたい力の系統性)

<p>【既習】 3年「書き手のくふうを考えよう」 ・保健だよりを読み比べ、書き手のねらいに合わせた表現の違いを読む。 4年上「広告と説明文書を読みくらべよう」 ・広告と説明書の文章を読み比べ、それぞれの目的に合わせた表現の違いを読む。</p>	<p>【本単元】 ・インタビュー記事と説明文を読み比べ、それぞれの特徴をつかむとともに、二つの文章を関係づけて筆者の思いや考えを読み取る。 ・知りたいことを調べるために、様々な本や資料を選んで読む。</p>	<p>【次単元】 4年下「報告します、みんなの生活」 ・いろいろな本や資料を、目的を意識して読む。 ・資料から情報を読み取り、読み取った情報を生かして文章を書く。 5年「和の文化について調べよう」 ・いろいろな本や資料を、目的を意識して読む。 ・伝えたい内容や目的に合わせて、資料を活用して説明する。</p>
--	--	---

【身に付けさせるべき力の明確化】

既習事項と次の単元につながる「つけたい力」を指導案に明記しています。
学校全体で、指導事項の系統性を意識して指導することにつなげています。

◆単元構想の工夫

指導にあたり、「小林さんに提案する『ゆめのロボット』を考える」というゴールイメージを持たせる。また、完成した「ゆめのロボット」を全校集会で学級の代表が紹介したり、他学年の教室へ行って全員が発表したりするだけでなく、実際に筆者である小林さんに送ることを伝え、目的意識や相手意識を持って学習を進められるようにしたい。

一次の学習では、興味を持たせるためにロボットに関するブックトークを開いた後、関連図書を教室内に置き、並行読書を進めたい。ロボットの写真や筆者の紹介文などを教室内に掲示をしておきたい。

二次の学習では、小林さんに提案する「ゆめのロボット」を考えるために筆者の考えや願いを知ることが必要である。そのため、一つの文章に書かれていることを他の文章で確かめたり、一つの文章には書かれていないことを、他の文章から読み取ったり、二つの文章を関係づけて読んでいく。その際、関係づけて読みやすいように記事と説明文を上下に分けたプリントを作成し、視覚支援をする。

1.0の視点① 教材提示の工夫

二つの文章を関係付けて読みやすくするため、記事と説明文を上下に配置し、気付いたことを書き込める資料を作成しています。

三次の学習では、理由や根拠を挙げながら自分の考える「ゆめのロボット」を書く。紹介文を書く時、自分の考えを明確にさせるために、簡単な段落構成を示し、段落相互の関係に注意して書けるように支援したい。

◆伝え合う場面の設定

本時では、自分の考えを明確にするためにノートに書くが、段階に応じて、本文にサイドラインを引いた言葉を手がかりに自分の考えを伝え合える力となるように指導していきたい。また、自分の考えをより深めるために、隣同士のペアで伝え、共通点や相違点を確認し合う活動を取り入れる。全体共有の時間を取った後、自分のノートにまとめる際、「伝え合い」で気付いた新たな考えを違う色のペンで書き込み、学びの変容を実感させたい。

3 本単元の目標と評価規準

目標	<p>○二つの文章を関係づけて読み、考えたことを友だちと伝え合い、自分の考えを深め、広げることができる。</p> <p>○筆者の願いや考えを知り、筆者に提案する「ゆめのロボット」を考えることができる。</p>			
評価規準	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
	<p>①人の役に立つロボットに興味を持ち、進んで二つの文章を関係づけながら読んで、意欲的に学習に取り組もうとしている。</p>	<p>①自分の考えたことを明確に表現するため、文章の構成や効果を考えながら書いている。</p>	<p>①段落相互の関係を二つの文章内容から読み取り、それらを関係づけて筆者の考えや願いを捉えている。</p> <p>②文章を読んで考えたことをお互いが読み合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気づく。</p> <p>③知りたいことを調べるために、様々な本や資料を選んで読んでいる。</p>	<p>①文の構成について初歩的な理解をもつこと。</p>

4 単元構想（全9時間）

つかむ	次	時	主な学習活動	評価規準【 】と評価方法（ ）
			<p>○他学年に紹介するだけでなく、筆者の小林さんに書いたものを送るというゴールを示して、相手意識、目的意識を明確に持たせ、主体的な学びになるようにする。</p> <p>○関連する図書を学級文庫に置き、いつでも手にとって読めるように準備しておく。</p>	
	一		<p>学習の見通しをもつ。</p>	
		1	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボットについて知っていることなど自分の考えを発表し、意欲を持たせる。 ・記事と説明文を範読する。 ・単元の学習課題を確かめ、学習の見通しを立てる。 	<p>【関①】ロボットについて知っていることや考えていることを整理し、意欲的に学習に取り組もうとしている。（発言・行動観察）</p>
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・「マッスルスーツ」、「アクティブ歩行器」の動画を見せる。 ・ロボットに関するブックトークを聞き、図鑑や資料を選んで読む。 	<p>【読③】知りたいことを調べるために、様々な本や資料を選んで読んでいる。（発言・行動観察）</p>
取り組む・振り返る	二		<p>インタビュー記事や説明文を読んで筆者のロボットに対する考えをつかむ。</p>	
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー記事を読んで、筆者が研究している「ゆめのロボット」は、他のロボットとはどちらがうかを整理する。 	<p>【読①】筆者の考える「ゆめのロボット」が、他のロボットとどちらがうのかを読み取っている。（ノート・発言）</p>
		4	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文（始め・中・終わり）の文章構成を捉え、「マッスルスーツ」や「アクティブ歩行器」について「どんなロボットか」「どんな人をどう助けるか。」を読み取り、整理する。 	<p>【読①】教材文を読んで構成（序論・本論・結論）を捉え、「マッスルスーツ」や「アクティブ歩行器」がどんなロボットなのかを読み取っている。（ノート・発言）</p>

	5 本 時	・二つの文を関係づけ、筆者の願いや考えを読み取り、「小林さんの考える『ゆめのロボット』とは」という書き出しに続けて、百字でまとめる。(紹介文の前段)	【読①】 二つの文章を関係付けて読むことで「着るロボット」にこめられた筆者の願いや考えを百字程度でまとめている。(ノート)
三	教材文で読み取ったことをもとに、自分の「ゆめのロボット」について考え文章にまとめ、紹介の準備をする。		
	6	・様々な図鑑や資料を参考にしながら、自分の考える「ゆめのロボット」が活躍できる場面を考える。	【読③】 知りたいことを調べるために、様々な本や資料を選んで読み、必要なことを箇条書きで書いている。(ノート)
	7	・わたしの考える「ゆめのロボット」という題で四百字以内の紹介文を書く。	【言①】 構成に気をつけて文章を書いている。(文章)
	8	・自分の考えや願いを入れて紹介文を完成させる。	【書①】 自分の「ゆめのロボット」を考え、自分の考えを理由や根拠具体例を挙げながら文章にまとめている。(文章)
四	友だちに自分の考える「ゆめのロボット」を紹介する。		
	9	・グループで紹介文を読み合って感想を言う。	【読②】 文章を読んで考えたことをお互いが読み合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気づく。(行動観察・発言)
広げる	○小林さんに自分の考えた「ゆめのロボット」のアイデア紹介文を送る。 ○学校全体に自分の考える「ゆめのロボット」について紹介できるように廊下に掲示する。 ○社会科や総合的な学習において、同じようなテーマで教科書や資料など関係づけて読むことを生かす。		

5 本時の学習

(1) 目標 二つの文を関係づけ、筆者の願いや考えを読み取り、「小林さんの考える『ゆめのロボット』とは」という書き出しに続けて、百字でまとめることができる。

(2) 準備 掲示用教材文（記事と説明文）
短冊 前時にまとめたもの（マッスルスーツについて）

(3) 学習過程

学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	指導上の留意点・支援 【評価規準】（評価方法）
1 本時のめあてを確認し、音読をする。		○前時を振り返り、本時は「着るロボット」への小林さんの願いや考えについて学習することを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 二つの文を関係づけ、筆者の願いや考えを読み取り、「小林さんの考える『ゆめのロボット』とは」という書き出しに続けて、百字でまとめよう。 </div>		
2 インタビュー記事と説明文を関係づけて筆者の願いや考えを読み取る。(個人→ペア学習)	<p>○小林さんの願いや考えが書いてあるところを探して、読もう。 【インタビュー記事】最後の段落 【説明文】8段落</p> <p>○その中で共通する言葉にサイドラインを引こう。 【インタビュー記事】 ・<u>自分の体を自分で動かしたいという人の気持ち</u>にこたえる ・<u>気持ちや心の面でも人を助け、いっしょになって働くべき</u> 【説明文】 ・「着るロボット」には、<u>自分の体を自分で動かしたいという人の気持ち</u>にこたえたい、<u>心の面でも人を助けたい</u>という願いがある。</p>	<p>○二つの文を関係付けるため、インタビュー記事と説明文を上下に配置した資料を作成する。</p> <p>○二つの文を関係付けるため、インタビュー記事と説明文を読み比べ、共通する言葉にサイドラインを引くよう促す。</p> <p>○子どもが発言しやすいように隣同士で考えを交流させる。</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>○「べき」がある時、ない時を比較させ筆者の強い思いが込められていることに気づけるようにする。</p> </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【言葉の使い方への関心を高める工夫】 筆者の思いを読み取らせるため、助詞の使い方というポイントに着目させています。</p> </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○「こたえる」という意味を理解するために辞典で調べるよう促す。 ×答えを出す ○相手の行動や状況を受け、十分見合うような行動を取る 【視点③】</p> </div>
<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>10の視点③ 資料の活用 辞書を活用する場を設定しています。問題解決のために、必要な資料を使って調べたり、考えたりするなど、主体的な学びにつなげています。</p> </div>		

<p>(グループ→全体)</p> <p>3 筆者の考えを百字程度でまとめる。</p>	<p>◎筆者は「着るロボット」は「心の面でも人を助ける」と言っているが、これはどういうことでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の力でもっと動けるようになりたい」という気持ちを支えること。 ・訓練で長い時間がかかっても、体の不自由な人が「自分で動かせるようになりたい」という願いを持ち続けられるように助けること。 <p>○「小林さんの考える『ゆめのロボット』とは」という書き出しに続けて、百字程度でまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(前略)、「マッスルスーツ」や「アクティブ歩行器」のように、体が不自由な人が、自分の体を自分で動かしたいという人の気持ちにこたえて、いっしょになって働くロボットです。(97字) ・(前略)、ただ「役に立つ」だけでなく、例えば、体の不自由な人が「自分で動けるようになりたい」というような気持ちや心の面でも助け、人といっしょになって働くロボットです。(98字) <p>○次の時間には、小林さんに提案するロボットを考えていこう。</p>	<p>○「心の面」の意味を理解させるため、意味をかみくだいて伝える。</p> <p>○自分の考えにないものを友だちの考えから学ぶために、グループで交流させる。</p> <p>○題名も比較することで、小林さんの考える「ゆめのロボット」とは、具体的には「着るロボット」のようなロボットであることも確認しておく。</p> <p>【読】 二つの文を関係付けて読むことで「着るロボット」にこめられた筆者の願いや考えを百字程度でまとめている。(ノート)</p> <p>○書き出しの言葉を統一する。また、何を書いたらよいか困っている児童には、「学習過程2」で出た言葉から大事だと思われる言葉を選ばせ、それを使ってまとめればよいことを伝える。</p> <p>○2・3人の児童に発表させ、学んだことを全体で共有する。</p>
<p>書くことに抵抗がある児童のため、書き出しの言葉を統一したり、取り上げたいキーワードを確認したりする支援が用意されています。</p> <p>児童の実態を把握し、その実態に応じて、適切な支援を用意することが重要です。</p>		
<p>4 次時の学習予定を知る。</p>		